

令和4年度 中央区立中央幼稚園 自己評価報告書

園名： 中央区立中央幼稚園 所在地：中央区湊1-4-1

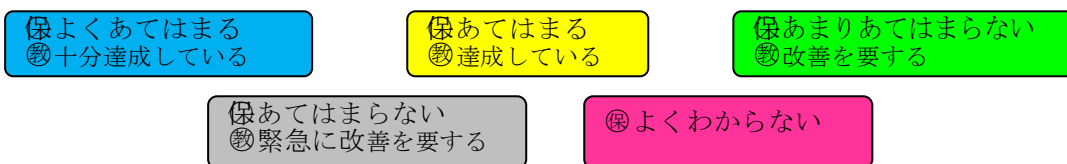
園長名： 山本 有子

園児数： 63名 学級数： 4学級 教員： 6名（園長1名）

★本園では、Ⅰ主体的に学び行動する基礎の育成、Ⅱ豊かな人間性の基礎の育成、Ⅲ健康な体力・安全な生活の素地の育成の3点を重点目標に教育活動を行いました。これについて、教員の自己評価アンケートを行うとともに、令和4年12月に保護者の皆様に園評価アンケートを実施しました。

＜重点目標の達成状況及び取組状況＞

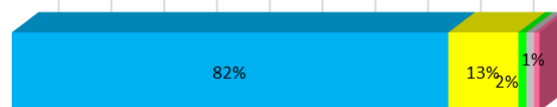
保護者の重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせた平均は94.2%で、昨年度と同様に9割以上という評価をいただきました。以下重点目標ごとの結果です。



重点目標Ⅰ 主体的に学び行動する基礎の育成

保護者

① 一人ひとりが安心して、自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいる。



② 学級や他学年の友達に興味をもち、かかわりを喜んでいるか。

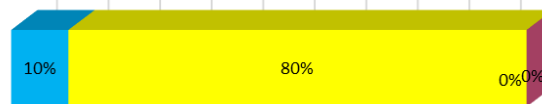


教員

① 一人ひとりが安心して、自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいる。



② 学級や他学年の友達に興味をもち、かかわりを喜んでいるか。

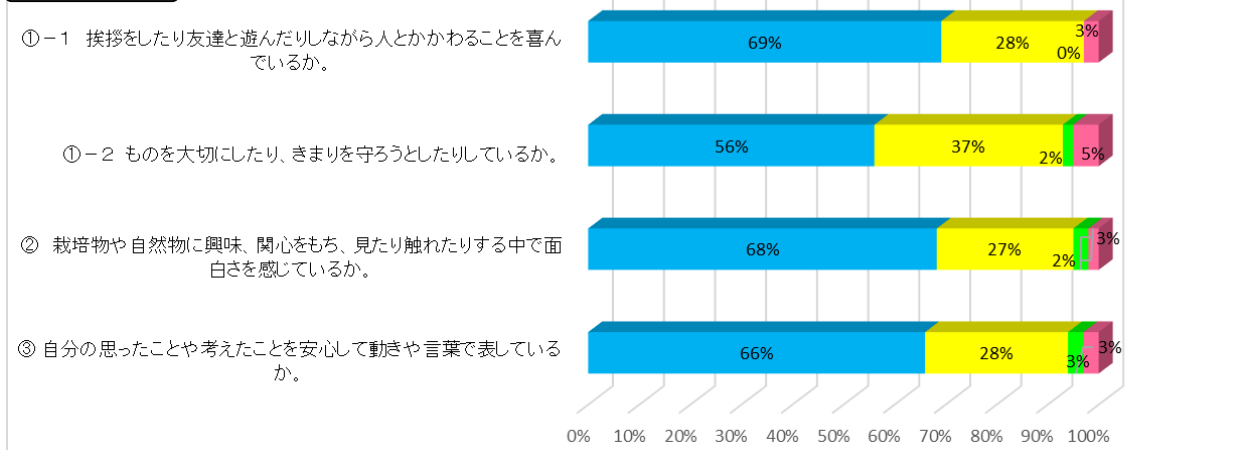


○重点目標Ⅰの保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は、92.5%と高い評価をいただきました。ほとんどの幼児が自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいると評価をいただいた一方、「あまりあてはまらない」5%「あてはまらない」1%「わからない」が4%という回答がありました。幼稚園は、降園時、個人面談等で、保護者に対し、幼児の具体的な姿や成長、課題を伝えています。幼児

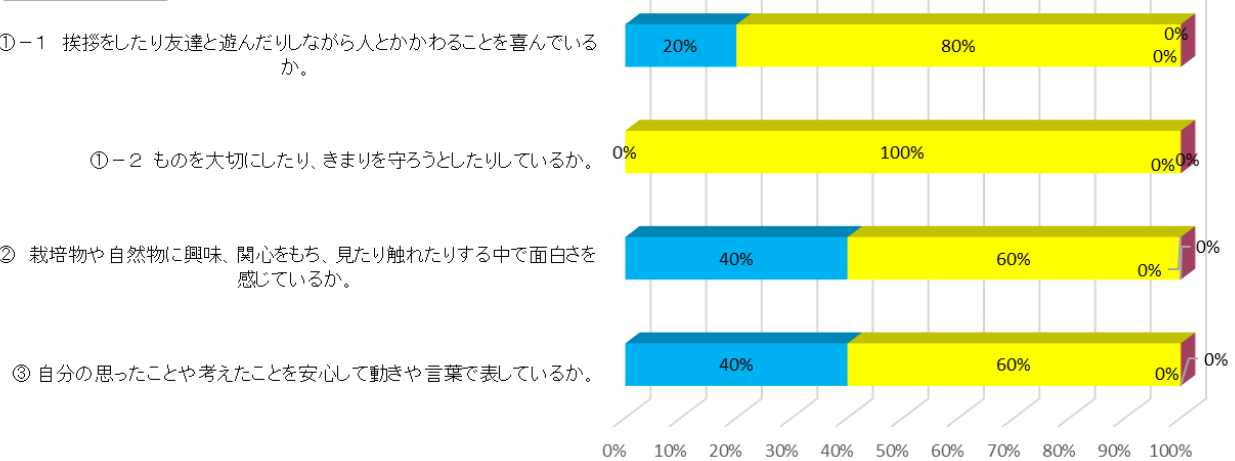
の様子をより一層発信する必要があると捉えました。②の項目について、教員の評価から、家庭(コロナ禍で一緒に遊ばない、兄弟姉妹がいない等)の実態を踏まえ、園内で異年齢での活動を計画的に増やしたいという意見がありました。(教員同士の連携、異年齢グループで一緒に遊ぶなど)昨年度に比べ、遊びの中で自然に他学年と一緒に遊ぶことも増えてきました。引き続き、主体的に遊びに関わり、友達とのかかわりを楽しむ幼児を育てていきたいと思ひます。

**重点目標Ⅱ 豊かな人間性の基礎の育成**

**保護者**



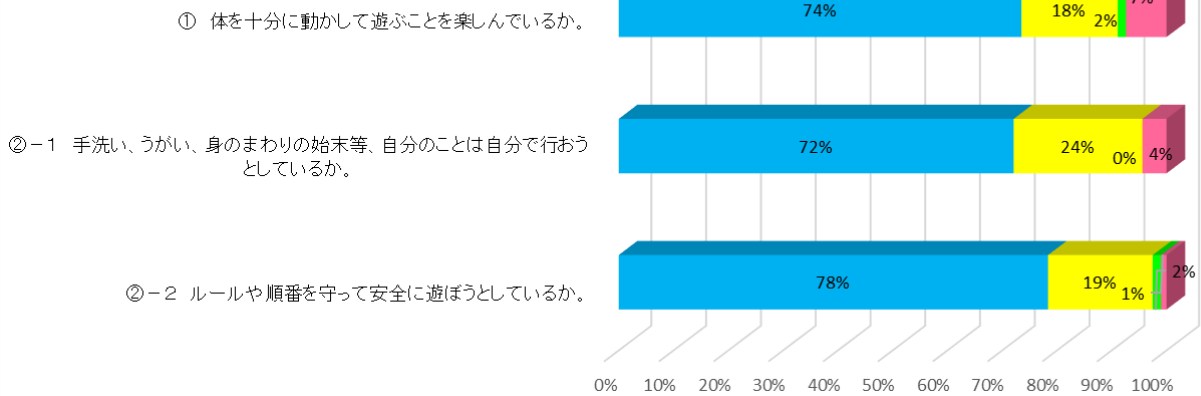
**教員**



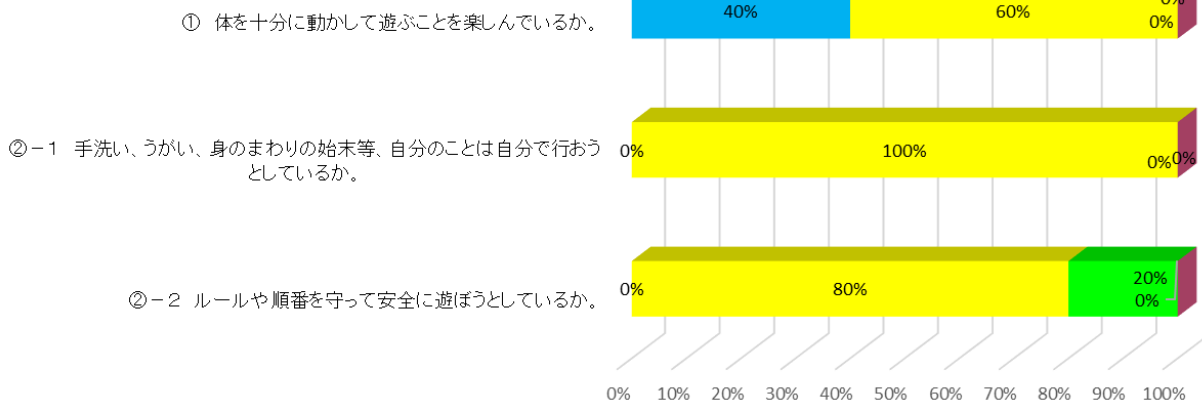
○重点目標Ⅱの保護者の「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の平均は94.7%と、高い評価をいただきました。どの項目も、少人数ですが「あまりあてはまらない」「わからない」の回答がありました。お子さんによって家庭での姿から園での姿が想像できない方もいらっしゃるのではないかと捉えました。幼稚園では、人とのかかわりを通して思いやりの気持ち、善悪の区別、場に応じた行動などを身に付けていきます。幼児の心情面や集団生活で学ぶことを、教師が具体的な姿を通して、伝えていくことが課題です。②の『飼育栽培活動などの体験活動』では、昨年度に比べ栽培物を収穫し、主事が調理したものをみんなで食する機会をもつことができました。栽培物の世話を通して変化や生長に気付いたり、自分たちで収穫したりする喜びは大きく、野菜が苦手な幼児も、園では口にすることができた場面もありました。本人の自信となり、保護者と一緒に喜びを共有する機会にもなりました。教員の課題としては、①-1の項目で、生活の中で使ったものをも元に戻せなかったり、扱い方が雑になったりする姿があると捉えています。幼稚園で使うものという意識を身に付けさせ、大事に扱えるような物の置き方の工夫が必要と考えています。

### 重点目標Ⅲ 健康な体力・安全な生活の素地の育成

#### 保護者



#### 教員



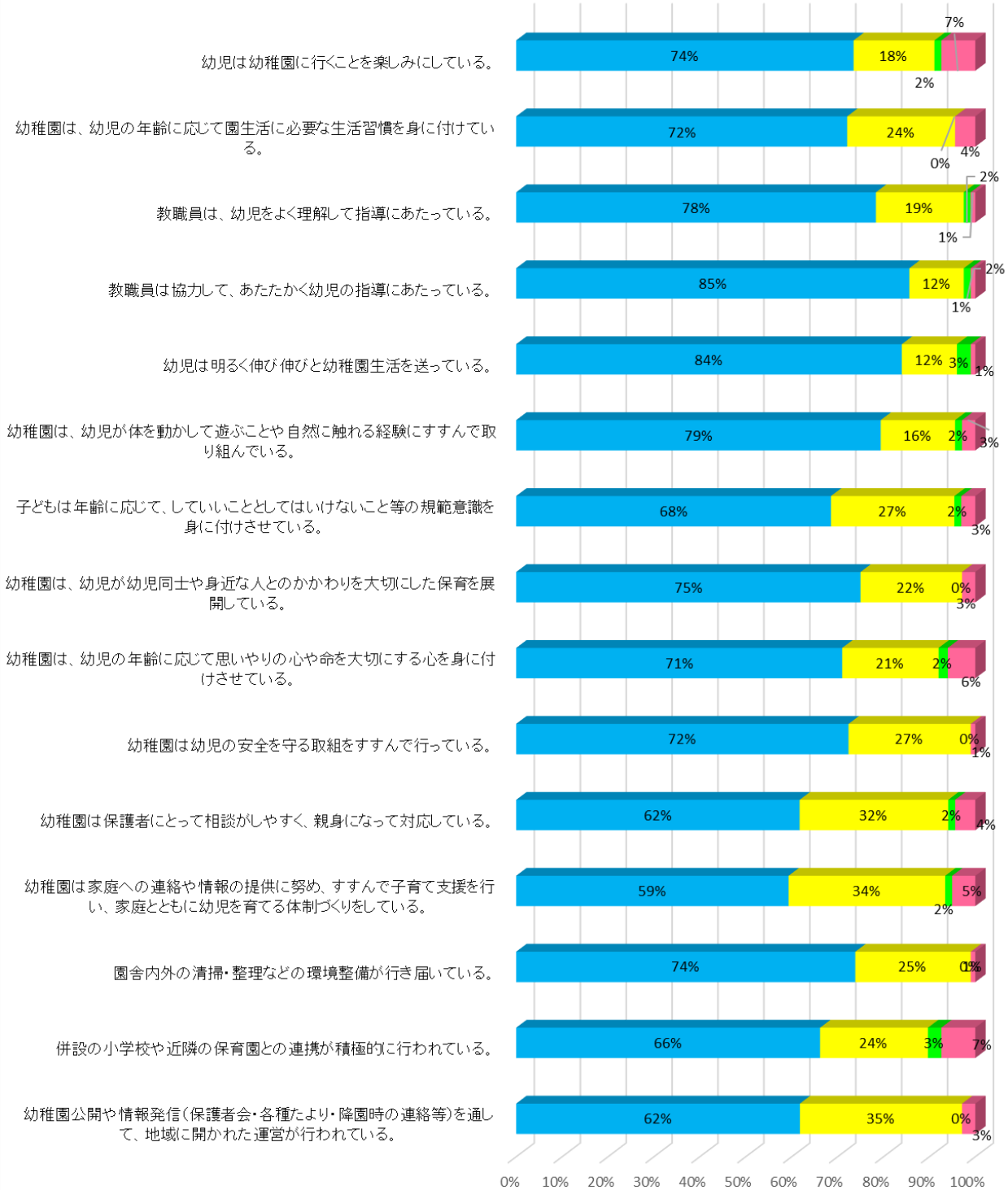
○重点目標Ⅲの「よくあてまはる」「あてまはる」の合計の平均は95%と昨年度と高い評価をいただきました。少ない人数ですが、自ら戸外に出て遊ぶことに消極的な幼児もいるのが実態です。2学期後半からは園全体で登園した後、戸外に出て体を動かして遊ぶリズムを作ったことで、自分の好きな遊びに集中する姿も出てきました。また、園からの運動遊びの紹介や、「運動遊び教室」の実践を通して、保護者の方に運動遊びの大切さを伝えていきます。教員の評価では、②-2について、ルールや危険なことを知らせる姿があります。自分たちで気付くことは大切ですが、言い方が強くなり課題を感じることがあります。また、相手の話を聞きながら遊びを進めていけるようになってほしいという願いがあります。教職員は一人一人の性格や経験、成長を丁寧に見取り、個々に応じた援助を行ってまいります。

<重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況>

保護者アンケートによる評価

★全方位的な評価として、保護者15項目、教員11項目での評価を行いました。

保護者



#### ○保護者による評価

「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の平均は、95.2%でした。『園児同士や身近な人とのかわわりを大切に保育を展開している』『安全を守る取組』『環境面を問う』項目については、特に高評価を頂きました。幼稚園公開や保護者参加の行事等の機会を昨年度より多く実施でき、直接園児の様子や園の環境を見ていただけたことも大きな背景にあるのではないかと思います。一方、『併設小学校や近隣の保育園等との連携について』という項目で「あまりあてはまらない」「わからない」という回答が5%と、他の項目に比べわかりづらい傾向が見えました。併設小学校との連携は理解できても、同じ質問内に「保育園」についてとあったので、「わからない」ことに繋がったと思われます。教員や保育士との研修会の内容や連携の方法について、発信の仕方を工夫していきたいと思えます。『子育ての支援』の項目では、幼稚園が保護者にとって子育ての喜びを共感できる場、子育ての悩みや経験を交流できる場となれるように努めてまいります。そのために、保護者が園に気軽に相談できるような信頼関係を築くとともに、今年度実施した「絵本の講演会」「運動遊び教室」などのように専門家や専門機関との連携を図り、親子活動の実施や子育てに関する情報の提供を行っていききたいと思います。

自由記述欄や行事ごとのアンケートでは、「子どもは幼稚園へ行くのを楽しみにしている」「教員が一人一人としっかりと関わっていてありがたい」「子どものやりたい遊びを実現させて頂き、たくさん経験ができています」など、温かい感想が寄せられています。今後も、家庭と幼稚園との連携を深め、より充実した教育活動を実践してまいります。

#### ○教員による評価

教員は全方位的な評価11項目を行いました。その中でも『環境構成』『保幼小の連携』『研修』『情報提供』『保護者、地域住民との連携』の項目では、「改善を要する」という評価がありました。

『環境構成』については、3学年の育ちを踏まえた環境構成が、幼児の主体的な遊びを引き出す大事な要因となっています。担任が園全体で考える視点を持ち、幼児の動きを予測して教材準備、環境の設定を今後も行っていきたいと思います。

『保幼小の連携』は、保護者評価同様、「保育園」との連携が十分でなかったという反省があがりました。双方に交流したいという願いをもちつつ実現できなかった部分もありました。保幼小連携日を中心に、具体的な実施内容を検討してまいります。

『研修』については、教材研究、事例検討、研究保育を通して園児の実態にあった援助方法を共有し、保育の質の向上に努めています。特に研究保育を行う際は、保育時間を短縮し保護者の方にご協力をいただいています。外部や保護者への研究内容の発信については、十分ではなかったと捉えています。発信方法を検討し、教育活動の理解につなげてまいります。

『情報提供』については、今年度から園務支援システムが導入され、写真やコメントを通して保護者の方にすぐに保育の様子や経験を発信することができています。全保護者に情報を共有することができますが、保護者側がシステム自体をどう感じているか、どのようなことを求めているのかを的確に捉え、より園と保護者をつなぐツールとして活用する必要があると考えます。

<今後の改善方策>

○幼稚園教育要領に基いて、主体的に遊びに関わる幼児を育てる。

- ・園内研究会、研修の充実、幼児期にふさわしい生活・遊びの実践
- ・3学年の発達を見通した教材の提示、環境構成

○小学校・保育園と連携した就学前教育の充実を図る。

- ・教員同士の互いの教育活動の理解、互惠性のある交流の実践
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心とした学びの連続性を図る。

○保護者・地域との連携を深め、幼稚園・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。

- ・幼稚園公開、幼稚園行事、保護者参加活動などでの地域、保護者との関わりの充実
- ・学年日より、ホームページ、園務支援システムの活用、写真掲示等による発信の充実。
- ・園と保護者の日々のコミュニケーション、専門機関との連携、外部講師の活用等を通した子育て支援の充実

